

電気の安全とくらしの快適のために 後悔しない令和の時代の配線・電気設備計画とは？

パナソニックでは、2025年11月より、「でんきの設備でeくらし」プロジェクトを始動。第一弾として、配線計画を指南する「電気設備の教科書【配線編】」を発行しました。営業と一体となったプロジェクトの概要と、プロジェクトに込められた思いについて、ご紹介いたします。

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 電材&くらしエネルギー事業部



市場開発担当 松田

市場政策企画担当 北田

商品営業企画担当 平田

住宅会社様もあまり認識していなかった お施主様の「コンセントへの不満」とは？

パナソニックの配線器具は、おかげさまでユーザー様より高いシェアを頂戴している商品群です。電材&くらしエネルギー事業部のマーケティングセンターでは、定期的にユーザー様への調査を行っているのですが、電源コンセントに着目して住宅のお施主様に調査してみると、新築から入居5年以内の戸建住宅にお住まいのお施主様の約75%*が、コンセントの口数や配置にご不満を持たれていることがわかってきました。

一方、住宅会社様にもヒアリングを行ったところ、お施主様が配線設備に関してご不満を持たれているという調査同様の認識はあまりお聞かせいただけませんでした。「このギャップは何なのだろう？」という疑問が、今回のプロジェクトのきっかけでした。

今回、改めて大手ハウスメーカー様から地場のビルダー様まで、30社以上の様々な住宅会社様にヒアリングを実施しました。そこで見てきたことは、配線器具は水廻りや内装などに比べるとお施主様の関心が低くなりがちで、住宅会社様との仕様打ち合わせに割く時間や頻度、優先度が低くなる傾向があること、そして、多くの住宅会社様では「一つの部屋に二か所のコンセントを配置する」といった旧来規定通りの電源配線設計が長年続いてきた、ということでした。

市場では、全メーカーで、1年間に約1400万本の延長
*コンセントに関するアンケート 出典：ルームクリップ株式会社（2025年4月15日～23日実施）n=1,167名（RoomClipユーザー）

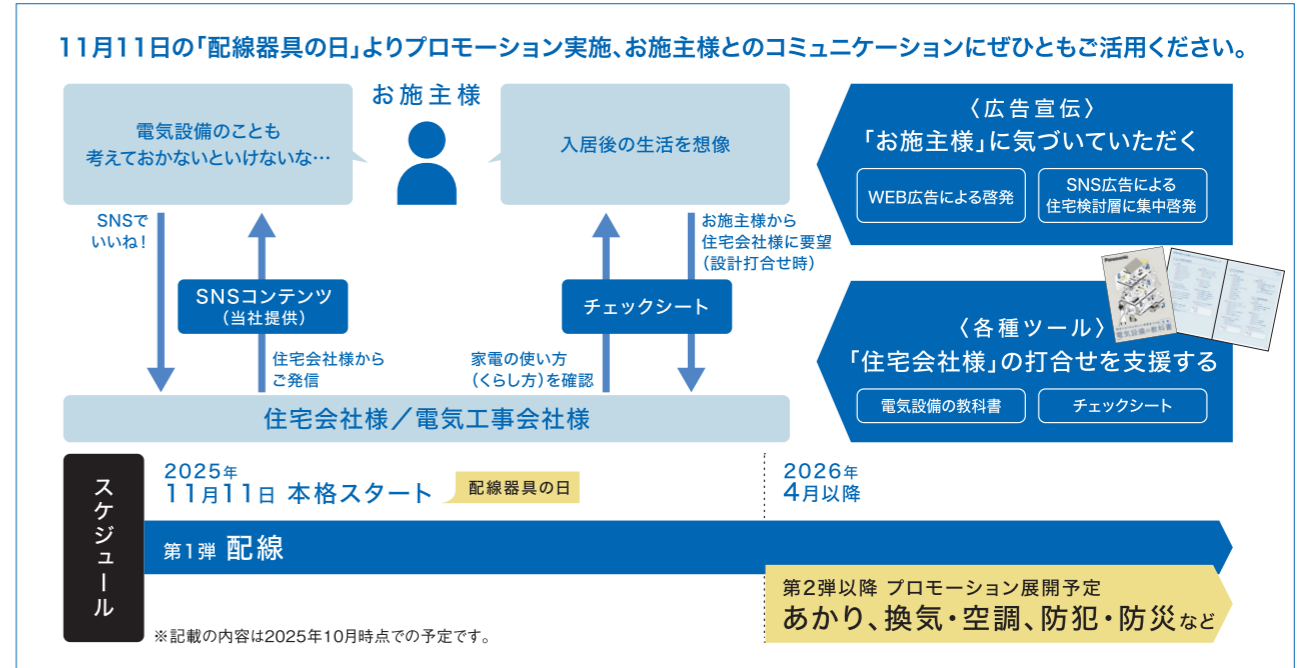
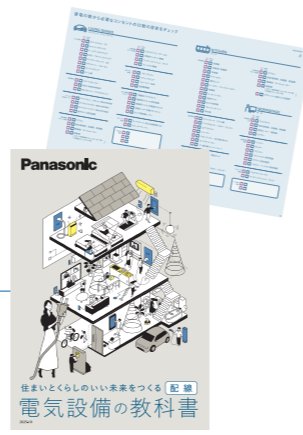
コード（テーブルタップ）が売れています。このことから、それだけコンセントの絶対数が足りない、適所に配置されていない、ということがわかります。延長コードは便利ですが、たこ足配線になると、電流の上限を超えて過熱や発火のリスクが生じたり、ほこりが溜まって「トラッキング現象」を引き起こしたり、また、足をひっかけて転倒するなどの危険性もあります。家具などの配置や電源が必要なもの（負荷）の配置などを考慮した電源コンセントを住宅に設置していただくことは、くらしの快適だけでなく、安全を守る意味でも非常に重要です。

お施主様と住宅会社様の間で、配線計画について新たな生活目線で打ち合わせしていただくことが、お施主様が入居後に後悔されることのない、質の高いくらしにつながるものと考えました。

11月11日「配線器具の日」より プロジェクトをスタート

プロジェクトは、11月11日のプレスリリースや新聞広告掲載（次ページ見開きに掲載）を皮切りにスタートしました。実はこの日は、一般社団法人日本配線システム工業会が定めた「配線器具の日」であり、これは2つの「11」をコンセントの差込口の形に見立てたことに由来しています。プレスリリースはかなりの反響があり、多くのメディアに取り上げていただきました。

当日の新聞広告では見開き全面に住宅のどの位置



にどのような配線器具のご検討が必要かをご紹介しました。また、Wi-Fiと有線LAN、住宅用火災警報器や住宅分電盤についても訴求しています。新築のご予定があるお施主様はもちろん、リフォームをご検討されている方にも、配線と電気設備で快適なくらしをイメージしていただくきっかけにもなればと考えています。今後、SNSでも後悔しない住宅電気設備の計画について積極的に発信していく予定です。

また、お施主様との打ち合わせやご提案にご活用いただける「電気設備の教科書 配線編」や「チェックシート」を新たに発行しましたので順次、住宅会社様、電気工事会社様、電材代理店様にお届けさせていただきます。

令和の時代にふさわしい 新しい配線のスタンダードとは？

当社では、昭和・平成時代にも、その時代にふさわしい新しい住まいづくりをご提案して参りました。令和時代の一番大きな変化は、これまでは家族と共用の家電製品が中心だったのが、個人が使う電気製品の数が大幅に増加したことではないでしょうか。コロナ禍をきっかけに在宅ワークが進み、デジタルデバイスを一人で複数台持っていることも珍しくなくなりました。スマートフォンなど充電機が増え、子どもたちもノートパソコンやタブレットを学習に使うようになりました。生活様式も多様化し、壁のない間取りも増えるなど、住宅のあり方

やくらし方も様々です。

こうした令和の時代のくらしに合わせ、電源コンセントの位置や数に柔軟性を持たせる「四隅配置」+「アドオン」という手法をご提案しています。つまり、寝室やベッドでの給電を考えたり、床・壁・天井を含めて空間全体で適所からの電源確保をあらかじめ検討することで、より快適性を実現する手法になります。

今後、脱炭素社会への移行に伴い、ZEHの標準化、高気密・高断熱化が進みます。エネルギーの電化が拡大し、エコキュートやEVなど、家の外側に配線や電源が必要な電気設備も増えます。住宅の気密性を損なう入居後の施工はより困難になります。

電気設備や配線の予算は、建築費に占める割合は大きくありませんが、入居後の快適性や満足度において、重要なイニシャルコストのひとつであり、中でも電源コンセントはコスト最少でコスパ最強の「電気設備」と言えるかもしれません。「でんきの設備でeくらし」プロジェクトでは、今後、あかり、換気・空調、防犯・防災などにも展開予定です。さらなるご支援の程、何とぞ宜しくお願いいたします。

ダウンロードはこちらから。ぜひご利用ください

令和になった。家電も増えた。 さて、コンセントは、どうですか？

令和になって、増え続ける家電。電気設備
くらしのことを考えて、コンセントのこと、

の不満も増えています。まず、建てる時にこそ、
しっかり計画してください。

スマホは一人一台、家電の数も急増中。
コンセントに不満がある人は

75.4%^{※1}

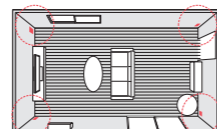


アドバンス
シリーズ

存在感をおさえたフラットな
デザインと上質なマット仕上げ。
これからのくらしのスタンダード。

コンセントの位置や数が不満の原因。

近くにコンセントが無いから「タコ足配線」をしてしまう。
ひとつのプラグに負担をかけ過ぎると、火災の原因にも。
これからは「四隅配置」でゆとりのあるコンセント計画を。



コンセントの不満は、
数だけでなく、位置。
「位置の不満」は

68.2%^{※1}

キッチンはお料理をする手の届く範囲に。寝室は枕元にも。
リビングでは、それぞれの居場所にコンセントを。



Sプレート

直線的でスリムなデザイン。
狭いスペースにも施工できる横長タイプ。



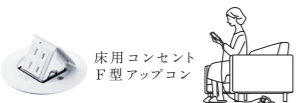
USB コンセント

電源アダプタなしで
充電可能なUSBコンセント。

ベッドの位置に合わせて、
枕元にスマホの充電場所を。

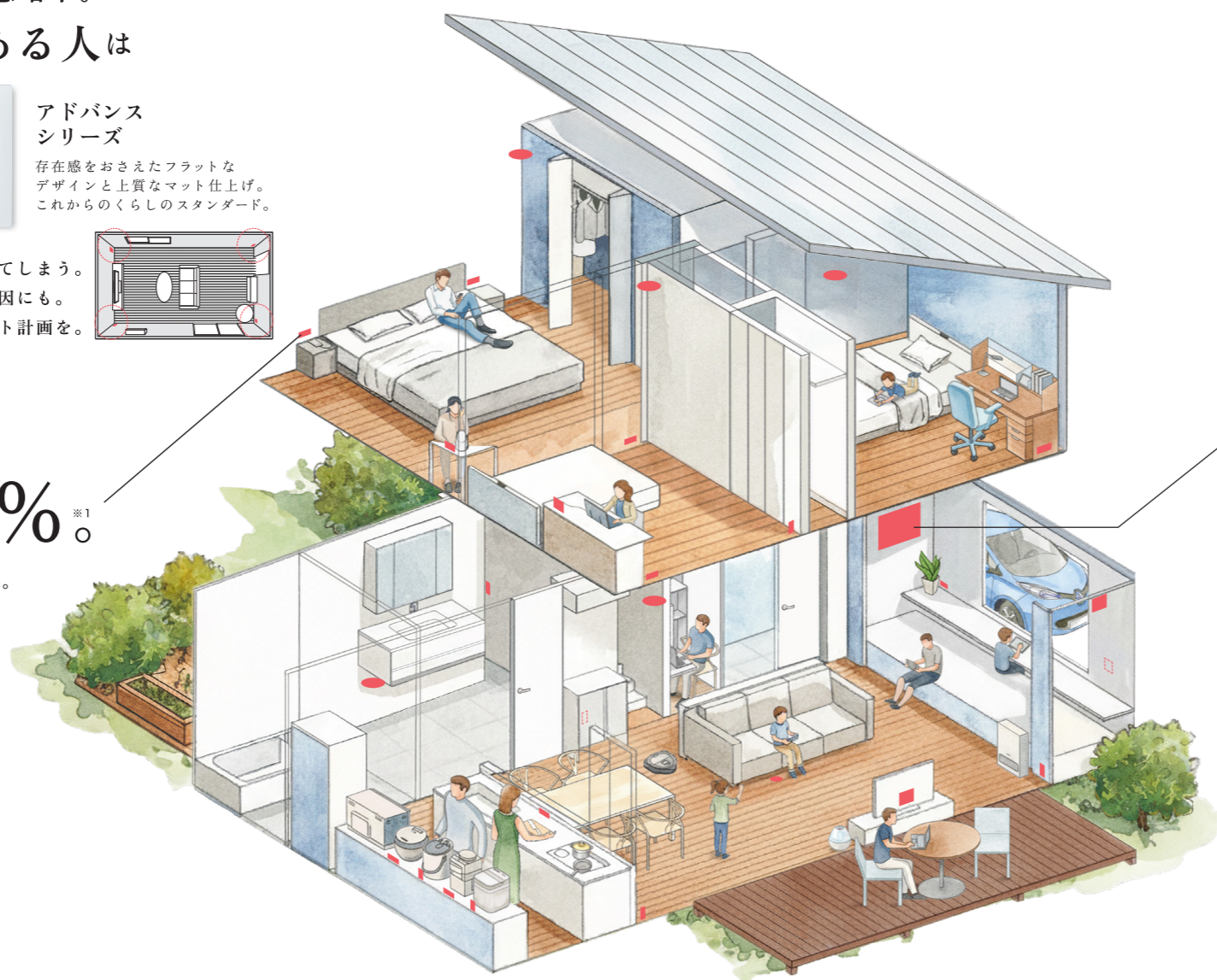


季節家電やスマホなど、
よく使う場所にも。



床用コンセント
F型アップコン

キッチン家電も、すぐ手が
届くコンセント配置に。



分電盤を操作したことがある人は、

72.0%^{※2}

手の届きやすいところに設置しましょう。



停電時なども、すぐに操作できる場所に
設置しておきたい、分電盤。スタイリッシュな
デザインも増えています。

住宅用分電盤
FLEXIID

フレキシード
地震かみなりあんしん ばん

南海トラフ大型地震の脅威が予測される中、
「感震ブレーカー」を設置している人は

まだ **24.2%^{※2}**

東日本大震災では、発生した火災の**54%^{※3}**
が電気が原因。多くは、停電後、電気が復旧した
時に起きる「通電火災」です。
感震ブレーカーを設置して、地震への備えを。

感震ブレーカー
震度5以上の地震を
感じたら電源を
ストップ。



地震かみなり
あんしん ばん

大切なパソコンや機器を、
雷被害からしっかりガード。



雷用避雷器
大切なパソコンや
機器を、雷被害から
しっかりガード。



「雷でパソコンの
データが全部消えた！」
なんてことも。



雷が落ちた時、強い電流が家に流れ込み、電化製品を故障させる
被害、「雷サージ」。避雷器の入った分電盤なら、安心です。

でんきの設備でeくらし

時代が変わると、くらし方も変わる。だから、はじめます、
「でんきの設備でeくらし」運動。まずはコンセントなどの電気設備から。
やがては、照明や空調などにまで広がって、令和のくらしをもっと快適にします。

※1 出典：ルームクリップ株式会社（2025年4月15日～23日実施）n=1,167名（RoomClipユーザー）
※2 パナソニック調べ 日本全国男女20歳～69歳（2025年7月18日～22日実施）n=1,000名
※3 データ提供：気象会社「フランクリン・ジャパン」（相模原市）



コンセント計画の知恵が詰まった
「電気設備の教科書」。
こちらからダウンロード。